

令和８年度 府中市立府中第四中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第１学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・初見の文章を読み、その文章に対して内容理解を深めるとともに自分の感想や意見を文章で表現すること。 ・目的に応じて必要な情報を選択・整理し、要約したうえで、自分の考えについて、根拠を基にして明確に表現すること。	・自分の考えを周りの人に伝える時間を設ける。【表現・対話】 ・学習者用デジタル教科書やタブレット端末など視覚教材を活用する。【発見】 ・目標を明確にした言語活動を設定する。【表現】		
社会	・資料を基に、自分の考えを自分の言葉でまとめたり、考えたことや話し合ったことを表現できるようになること。	・学習課題を工夫して自分の考えをまとめたり、表現したりする機会を増やす。その際、生徒の実態に合った資料を活用し、客観的な意見を書けるように留意する。【決定・表現】		
数学	・基本的な四則計算や図形の基礎知識等、学びの土台となる知識・技能を身に付けること。 ・学習内容と日常生活とのつながりについて、実感できるようにすること。	・個人の演習だけでなく、他者に質問したり説明したりする活動を行う。【表現】 ・日常生活における課題を解決することや数学が用いられているものを紹介することで、数学の有用性を実感できる授業を展開する。【発見・対話】		
理科	・見通しをもって観察や実験ができるようになること。 ・観察、実験結果をもとに科学的に探究する力を身に付けること。	・身近な事象を積極的に取り入れ、課題を明確に捉えさせる。【発見】 ・結果を学んだ知識と結び付け、他の生徒と話し合い、ヒントとなる視点をもとに自分の考えをまとめられるようにする。【対話・表現】		
音楽	・基礎知識(楽譜を読む力)を身に付けること。 ・要素を捉えて作品観賞ができるようになること。 ・感受したことを、思いの通りに他者へ表現できるようになること。	・読譜の基礎学習を定期的に取り入れる。【発見】 ・観点の分かりやすいワークシートを提示する。【発見】 ・表現上の課題を明確にし、基礎的な技能を習得する活動と、自ら表現方法を工夫・選択する活動を設定する。【決定・表現】		
美術	・美術に対して意欲的に取り組む生徒が多いことを生かし、様々な表現手段を身に付けること。	・鉛筆の使い方や筆の使い方、絵の具の使い方、ものの見方など、今後作業していく上で必要な基礎基本の定着を図る。【表現・発見】 ・タブレットの活用や生徒同士の対話を通じて、発想を膨らませる時間を確保する。【表現・対話・発見】		
保健体育	・体を動かすことや、自身の体の変化や健康に興味をもつこと。 ・自らの課題を見つけ言葉で表現できるようになるとともに、体でも表現できるようになること。	・スモールステップの課題提示をし、達成感を感じさせ、積極的に授業に参加できるようにする。【決定・表現】 ・I C T 機器を活用し、自分の動きを客観的に確認させ、課題や解決策等を話し合う時間を設ける。【発見・対話】		
技術	・技術に対する関心は高い。身近な生活における問題発見や疑問の抽出ができるようになること。 ・調べ学習において、検索結果や AI 回答を吟味し、よく検討して活用すること。 ・作業の段取りや工具の扱い方に個人差があるため、安全面への意識を高めること。	・既習の知識や技能が身近な生活のどこに生かされているか、具体的な事例を提示して考察させる。【発見・決定】 ・調べ学習では複数の情報源を比較・選択させ、自分の言葉で要約・整理してまとめさせる。【発見・決定・表現】 ・作業工程を視覚的に示し、正しい工具の使い方や安全点検を相互に確認させる。【発見・対話】		
家庭	・家庭科に高い興味・関心を示す生徒が多く、「食」に関わる学習が好きな生徒が多い。課題は身に付けた知識を実生活と結び付けて捉えたり、実生活に生かしたりすること。	・体験活動を増やすことで、身に付けた知識を発揮する場面を多く設定する。【表現】 ・学習課題を生徒に発見させたり、課題を提示する際は実生活に関連付けたりすることで、自分事として学習に取り組めるようにする。【決定・発見】		
外国語	・音声（フォニックス）の知識を習得し感覚を高め、初見の単語や文を正しい発音で読むことができるようになること。 ・音と文字の一致に理解を深め、言葉として表現できるようになるとともに書くことができるようになる。 ・やり取りの中で、自分の考えを英語で伝える、表現できるようになること。	・新出単語の練習時にただ発音を教えるのではなく、生徒に音のルールを意識・発見できるように指導していく。教科書本文を音読する時も音声にも意識を向けて練習する。【発見】 ・対話活動の中で、自分が言いたい表現、言えない表現を理解して、その表現をどのようにしたら表現できるかを考えて、次につながる指導・活動をしていく。【決定】 ・英語で話す活動と書く活動の際に、生徒自身が使用可能な英語表現を使えるように日本語を変える力が育成できるように指導をしていく。【対話・表現】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和8年度 府中市立府中第四中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・読みににおいて、本文を踏まえて自分なりの考えを持ち、表現すること。 ・他者に自分の考えの根拠を明確に伝えること。 ・既習範囲の漢字を記述問題や作文において使うこと。	・個人で考えて終わりではなく、ペアや班での活動を通して自分の考えと他者の考えを比較、検討することで学びを深める機会を作る。【対話・表現】 ・自分の解答や考えの根拠を本文から示すことができるよう、本文の要点や根拠にチェックするなどして読解の流れを可視化する。【発見】 ・小学校第3学年で習う漢字から繰り返し書き取りテストを行い、記述や作文での文章、表現に活用する。【発見】		
社会	・資料を読み取り、自分の考えをまとめ表現する力を高めること。	・活用する場面を授業中に設け、意見交換する機会の中で自身の考えを深めることができるようにしていく。【決定・表現】		
数学	・深い学びの実現のための土台となる、基礎的基本的な技能を確実に身に付けること。 ・学習内容を日常生活と結びつけて考察できること。 ・生徒自身が理解度に合わせて学習内容を選択できるようになること。	・デジタル教材を活用する中で、理解度に合わせて取り組む問題を選択できる活動を単元内で少なくとも1時間取り入れ、その振り返りを行う。【決定・表現】 ・日常生活における問題に対し、問題解決に数学を活用する授業を単元の導入または単元末で扱う。【発見】		
理科	・学習活動の中で課題を発見し、見通しをもって課題解決に向けての考察を意欲的に行うこと。	・学習目標を明確にし、実験や観察の中でどのようなことが分かるのか、どうしてそうなるのかを考えさせる。【発見】 ・身近な事象を取り入れ、日常生活につなげるとともに、周りの人と多くの意見交換をし、考えを広げる。【表現・対話】		
音楽	・音楽の基礎知識(楽譜を読む力)を身に付けること。 ・音楽の要素を捉えて作品を鑑賞することができること。 ・感受したことを思いの通りに表現するために、技術を身に付けること。	・読譜の基礎学習を定期的に取り入れる。 ・観点の分りやすいワークシートを提示する。 ・表現上の課題を明確にし、基礎的な技能を習得する活動と、自ら表現方法を工夫・選択する活動を設定する。【対話・発見・決定・表現】		
美術	・表現手段の乏しさを改善するため、様々な技法を知り、表現能力を高めること。	・生徒同士で教え合える雰囲気大切に、その時間を意識的に確保することで、表現に幅をもたせる。【表現・対話・発見】 ・西洋絵画の技法を学んだり、技法をできるだけ具体的に丁寧に説明し、判断材料を増やしたりすることによって自ら主体的に取り組めるよう働きかける。【表現・発見】		
保健体育	・運動部に所属せず、運動経験が少なくても授業を通じて運動能力を高めていくこと。 ・苦手な種目にも主体的に取り組み、技能を高めようとする。	・授業の振り返りの時間をとることで、自分の得意不得意を見つめて改善につなげられるようにする。【発見・対話】 ・単元ごとの基礎練習を楽しんでたくさんできるように、その種目に合ったものを考え実施できるよう工夫する。【決定・表現】		
技術	・主体的な作業姿勢を高め、他者の動きを参考にできるようになること。 ・収集した情報を踏まえて考察し、自分の考えに反映できるようになること。 ・見通しをもち、自身の現在地や次の工程を把握して作業を進めることができるようになること。	・作業手順や点検内容を視覚化し、自らの進度を振り返り見通しをもたせる。【発見・決定】 ・収集情報を比較・吟味し、自分の言葉でまとめさせる。【決定・表現】 ・教え合いや工程の相互確認により、主体的な作業姿勢を育む。【対話・表現】		
家庭	・家庭科に対する意欲を高める。また、裁縫の内容に対する基礎的基本的な内容を習得すること。	・被服実習では、タブレット教材等を用いることで、全体指導のみで完結させるのではなく、生徒が自分のペースで学習を進められるようにする。【表現】 ・日々の授業では、生徒の興味・関心を惹きつけられるよう、具体物を示したり、実験を取り入れたりする。【決定・発見】		
外国語	・リンキングやイントネーションなど、英語らしい発音を意識できるようになること。 ・他者との英語によるやり取りにおいて、自分の考えを即興で加えることができるようになること。	・デジタル教科書の音声やモデル動画の発音を意識させリテリングなどを行い、リスニングやスピーキングへの意識づけ発見を促す。【発見】 ・常活動での「chat」を継続し、わからない表現をすぐに調べさせることにより表現法を広げる。【対話】【表現】 ・話すこと→書くことを繰り返し、中間評価を効果的にを行い、自分の考えなどを自分の言葉で表現する力を養っていく。【決定】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。

令和８年度 府中市立府中第四中学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第３学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2 学期末	年度末
国語	・難しい語彙を含む文章を読むこと。 ・図表やデータ、文章を読み取り、自分の考えを書けるようになること。	・都立高校入学者選抜の学力検査問題等に準じた内容の読解問題について、時間を決めて取り組ませる。 【発見】 ・各学期に 200 字程度の意見文を書く。【表現】		
社会	・社会的事象に対して、資料から読み取ったことを根拠に選択・判断し、表現できるようになること。	・授業で社会的事象に対して選択、判断する場面を設ける。適切な資料の活用やグループでの活動も取り入れながら、多面的・多角的に考えることができるようにする。【決定・表現】		
数学	・深い学びの実現のための土台となる、基礎的基本的な技能を身に付けること。 ・学習内容を日常生活と結びつけて考察できるようになること。 ・生徒自身が理解度に合わせて学習内容を選択できるようになること。	・デジタル教材を活用する中で、理解度に合わせて取り組む問題を選択できる活動を単元内で少なくとも 1 単位時間取り入れ、その振り返りを行う。【決定・表現】 ・日常生活における問題に対し、問題解決に数学を活用する授業を単元の導入または単元末で扱う。【発見】		
理科	・現象を科学的にとらえ、よく考え、自分の意見や考えを積極的に表現できるようになること。	・実験の考察は、これまでは質問に答える形式であったが、3 年生からは自らの言葉でまとめる形をとる。これによって実験を始める前から実験中にわたって、目的意識をもてるようにする。【対話・表現】		
音楽	・音楽の基礎知識(楽譜を読む力)を身に付けること。 ・音楽の要素を捉えて作品を鑑賞することができるようになること。 ・感受したことを思いの通りに表現するために、技術を身に付けること。 ・様々なジャンルの表現に興味をもち、自ら音楽を愛好しようとする心情を育むこと。	・読譜の基礎学習を定期的に取り入れる。【発見】 ・観点の分かりやすいワークシートを提示する。【表現】 ・表現上の課題を明確にし、基礎的な技能を習得する活動と、自ら表現方法を工夫・選択する活動を設定する。 【発見・対話・決定・表現】 ・時代、地域を超えて、多種多様な音楽表現を学ぶ。 【発見・対話・決定・表現】		
美術	・作品制作に対して前向きに取り組む雰囲気はできているため、一人一人がもう一歩先の表現を求め、粘り強く習得していくこと。 ・作品を制作する上で見通しをもち、計画的に作品制作を進めること。	・これまで培ってきた基礎的な技能、表現能力を生かせる発展的な課題設定を心がける。個別指導の充実。進度の差については作品が完成するまでにいくつかのスモールステップを用意し、その都度足並みをそろえられるよう工夫する。【表現・決定】		
保健体育	・運動を苦手としている生徒が、地道な練習に主体的に取り組めるようになること。 ・自分自身で課題を見つけられるようになること。	・スモールステップの課題提示をし、達成感を感じさせ、積極的に授業に参加できるようにする。【決定・表現】 ・ICT 機器を活用し、自分の動きを客観的に確認させ、課題や解決策等を話し合う時間を設ける。 【発見・対話】		
技術	・課題設定やアイデア出しにおいて既存の例を参考にし、独自の発想を生み出していくこと。 ・ネット情報を吟味し、内容を正しく理解し、課題に取り組めるようになること。 ・獲得した知識や技能を、自身の生活課題やよりよい生活の工夫へ結び付ける応用力を高めること。	・アイデア出しの比較検討を通じ、課題に応じた独自の発想を促す。【決定・表現】 ・ネット情報を吟味・選択させ、自身の言葉でまとめさせる。【発見・決定・表現】 ・知識や技能を生活課題と結び付け、工夫や改善策を話し合い、自分の考えをまとめさせる。【対話・表現】		
家庭	・家庭科に対する興味・関心をもち、説明に対して理解を深め、見通しをもって学習課題に取り組めるようになること。	・本時の流れを示すことで、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにする。【決定】 ・具体物を提示したり、タブレットを活用して何度も説明を見返せるようにしたりすることで、説明を理解できる生徒を増やす。【発見・表現】		
外国語	・チャット活動を通して、話す力を身に付け、さらに自分の「意見」を即興で話す力を高めること。 ・英文を書く際にタブレット端末で調べた内容を参考に、自分自身の考えで作文ができるようになること。	・帯活動においてチャットや英作文などの取り組みを継続的に実施し、アウトプットの力を磨く機会とする。 【対話・表現】 ・自分の考えを話したり書いたりする力の向上を図る。「書く」ことについては、モデル文を通して、全体の構成や有効な英語表現を知る機会を設定する。【決定】		

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2 学期末、年度末に評価する。